

令和2年度

施工パッケージ型積算方式標準単価表

(令和2年4月1日以降に入札する工事から適用)

国土交通省

航空局

I. 施工パッケージ型積算基準方式標準単価表の見方	I
II. 施工パッケージ標準単価一覧	II
III. 標準単価から積算単価への補正方法	III-1
III-1. 補正式	III-1
III-2. 標準単価から積算単価への計算例	
① 地域及び施工時期の違いによる補正の計算例	III-2
② 時間外割増賃金や豪雪補正等の補正を行う場合の計算例	III-3
IV. 空港土木工事における代表材料規格の基準単価作成方法について	IV-1、2
V. 本単価表に掲載されている以外の単価について	V

I. 施工パッケージ型積算方式標準単価表の見方

施工パッケージ型積算方式標準単価表(以下「単価表」という。)は、施工パッケージ単価でとりまとめる。単価表に記載されている用語の定義を以下に示す。

■条件区分

施工パッケージ型積算基準に定められた、各施工パッケージの積算条件区分一覧における条件区分である。

■標準単価

各条件区分に対応した、東京地区における基準年月(令和 2年度版の基準年月は平成31年4月)の施工単位当たりの単価(円)である。この標準単価を基に地区や年月等の補正を行い、積算単価を算出する。

■機労材市構成比

標準単価に対する機械経費(K)、労務費(R)、材料費(Z)、市場単価(S)の金額構成比率である。なお、K、R、Zは機械経費、労務費、材料費それぞれの合計金額構成比率であり、K1~K3、R1~R4、Z1~Z4、Sは各代表的な規格の金額構成比率である。また、各合計金額構成比率(K、R、Z)は代表的な規格以外の金額を含むため、K1~K3、R1~R4、Z1~Z4、Sの合計がK、R、Zと一致しない場合がある。

■機労材市構成比

「機労材市構成比」で代表的な規格の金額構成比率を示した機械経費、労務費、材料費、市場単価の具体的な規格名称である。

留意事項

(1)単価表には、補正に使用する機械経費、労務単価、材料単価、市場単価は記載していない。これらの単価等は空港請負工事積算基準の定めにより下記の通りとなる。

機械経費 : 船舶及び機械器具等の損料算定要領

労務単価 : 公共工事設計労務単価

材料単価 : 物価資料等

(2)空港請負工事積算基準に記載している各施工パッケージ型単価の「代表機労材規格一覧」(機械経費、労務費、材料費、市場単価の代表規格)の構成機労材規格の項番(K1,K2・・、R1,R2・・、Z1,Z2・・)と標準単価表に記載の構成機労材規格の項番について一致しないことがある。その場合は、標準単価表の記載内容を適用するものとする。

II. 施工パッケージ標準単価一覧

No.	施工パッケージ名称	ページ	参考:空港請負工事積算基準					備考
			部	編	章	節	空港請負工事積算基準	
01	路床整形工(空港)	01-1	I	3	2	①	路床整形(空港)	
02	散水車(空港)	02-1	I	3	2	②	下層路盤(空港)	※1
03	下層路盤(空港)	03-1~03-4	I	3	2	②	下層路盤(空港)	※1
04	上層路盤(空港)	04-1~04-11	I	3	2	③	上層路盤(空港)	※1
05	路面清掃(空港)	05-1	I	3	2	⑤	アスファルト舗装工(空港)	
06	プライムコート (アスファルト舗装工)	06-1	I	3	2	⑤	アスファルト舗装工(空港)	※1
07	タックコート	07-1	I	3	2	⑤	アスファルト舗装工(空港)	※1
08	基層・中間層(空港)	08-1	I	3	2	⑤	アスファルト舗装工(空港)	※1
09	表層(空港)	09-1	I	3	2	⑤	アスファルト舗装工(空港)	※1

※1 材料費(Z)に含まれていない資材(路盤材、アスファルト混合物等)について別途物価資料等による。

【No.5 路面清掃(空港)】
 < 積算単位:m2 >

条件区分	標準単価	機労材構成比														代表機労材規格											備考		
		K				R				Z				S	K (*印:賃料)			R				Z				S			
		K1	K2	K3	R1	R2	R3	R4	Z1	Z2	Z3	Z4	K1		K2	K3	R1	R2	R3	R4	Z1	Z2	Z3	Z4					
良好	4.42	66.98	66.98	-	-	21.79	21.79	-	-	-	11.21	11.21	-	-	-	路面清掃車[ブラシ・四輪式] ホッパ容量2.5~3.1m3	-	-	-	運転手(一般)	-	-	-	軽油1.2号	-	-	-	-	-
普通	5.30	66.98	66.98	-	-	21.79	21.79	-	-	-	11.21	11.21	-	-	-	路面清掃車[ブラシ・四輪式] ホッパ容量2.5~3.1m3	-	-	-	運転手(一般)	-	-	-	軽油1.2号	-	-	-	-	-
不良	6.61	66.98	66.98	-	-	21.79	21.79	-	-	-	11.21	11.21	-	-	-	路面清掃車[ブラシ・四輪式] ホッパ容量2.5~3.1m3	-	-	-	運転手(一般)	-	-	-	軽油1.2号	-	-	-	-	-

【No.6 プライムコート(アスファルト舗装工)】

< 積算単位:m2 >

条件区分		標準単価	機労材構成比													代表機労材規格											備考				
施工機械	砂計上の有無		K				R				Z				S	K (*印:賃料)			R				Z					S			
			K1	K2	K3	R1	R2	R3	R4	Z1	Z2	Z3	Z4	K1		K2	K3	R1	R2	R3	R4	Z1	Z2	Z3	Z4						
アスファルトディストリビュータ	有り	17.70	3.97	3.97	-	-	94.97	89.41	5.56	-	-	1.05	1.05	-	-	-	ディストリビュータ [自走式]タンク容量 2,000~3,000ℓ	-	-	-	普通作業員	運転手(一般)	-	-	軽油1.2号	-	-	-	-	-	
アスファルトディストリビュータ	無し	1.87	37.55	37.55	-	-	52.47	52.47	-	-	-	9.97	9.97	-	-	-	ディストリビュータ [自走式]タンク容量 2,000~3,000ℓ	-	-	-	運転手(一般)	-	-	-	軽油1.2号	-	-	-	-	-	
アスファルトスプレヤ+トラック	有り	90.74	4.22	3.43	0.79	-	93.29	54.62	21.32	17.35	-	2.40	2.06	0.34	-	-	トラック[普通型]2t 積	アスファルトスプレヤ [ガソリンエンジン駆 動・手押し式]25ℓ/min	-	-	普通作業員	特殊作業員	運転手(一般)	-	軽油1.2号	ガソリン レギュラー	-	-	-	-	
アスファルトスプレヤ+トラック	無し	74.92	5.13	4.17	0.96	-	91.90	45.05	25.83	21.02	-	2.90	2.49	0.41	-	-	トラック[普通型]2t 積	アスファルトスプレヤ [ガソリンエンジン駆 動・手押し式]25ℓ/min	-	-	普通作業員	特殊作業員	運転手(一般)	-	軽油1.2号	ガソリン レギュラー	-	-	-	-	-

【No.7 タックコート】
 < 積算単位:m2 >

条件区分		標準単価	機労材構成比													代表機労材規格											備考					
施工区分	施工機械		K				R				Z					S	K (*印:賃料)			R				Z				S				
			K1	K2	K3		R1	R2	R3	R4	Z1	Z2	Z3	Z4	K1		K2	K3	R1	R2	R3	R4	Z1	Z2	Z3	Z4						
既設アスファルト舗装	アスファルトディストリビュータ	1.12	37.55	37.55	-	-	52.47	52.47	-	-	-	9.97	9.97	-	-	-	-	ディストリビュータ[自走式] タンク容量2,000~3,000ℓ	-	-	-	運転手(一般)	-	-	-	-	軽油1.2号	-	-	-	-	-
既設アスファルト舗装	アスファルトスプレヤ+トラック	28.09	5.13	4.17	0.96	-	91.90	45.05	25.83	21.02	-	2.90	2.49	0.41	-	-	-	トラック[普通型]2t積	アスファルトスプレヤ [ガソリンエンジン駆動・ 手押し式]25ℓ/min	-	-	普通作業員	特殊作業員	運転手(一般)	-	軽油1.2号	ガソリン レギュラー	-	-	-	-	
新設	アスファルトディストリビュータ	1.12	37.55	37.55	-	-	52.47	52.47	-	-	-	9.97	9.97	-	-	-	-	ディストリビュータ[自走式] タンク容量2,000~3,000ℓ	-	-	-	運転手(一般)	-	-	-	軽油1.2号	-	-	-	-	-	
新設	アスファルトスプレヤ+トラック	18.73	5.13	4.17	0.96	-	91.90	45.05	25.83	21.02	-	2.90	2.49	0.41	-	-	-	トラック[普通型]2t積	アスファルトスプレヤ [ガソリンエンジン駆動・ 手押し式]25ℓ/min	-	-	普通作業員	特殊作業員	運転手(一般)	-	軽油1.2号	ガソリン レギュラー	-	-	-	-	
既設コンクリート舗装	アスファルトディストリビュータ	1.50	37.55	37.55	-	-	52.47	52.47	-	-	-	9.97	9.97	-	-	-	-	ディストリビュータ[自走式] タンク容量2,000~3,000ℓ	-	-	-	運転手(一般)	-	-	-	軽油1.2号	-	-	-	-	-	
既設コンクリート舗装	アスファルトスプレヤ+トラック	37.46	5.13	4.17	0.96	-	91.90	45.05	25.83	21.02	-	2.90	2.49	0.41	-	-	-	トラック[普通型]2t積	アスファルトスプレヤ [ガソリンエンジン駆動・ 手押し式]25ℓ/min	-	-	普通作業員	特殊作業員	運転手(一般)	-	軽油1.2号	ガソリン レギュラー	-	-	-	-	

Ⅲ. 基準単価から積算単価への補正方法

Ⅲ-1. 補正式

標準単価は、東京地区における基準年月(平成31年4月)の施工単位当りの単価であることから、地域及び時期の違いによる補正を行い、積算単価にする。

標準単価(P)から積算単価(P')への補正は、各施工パッケージ基礎単価データの機労材構成比を用い、下記の式により算出する。

$$P' = P \times \left\{ \left(\frac{K1r}{100} \times \frac{K1t'}{K1t} + \dots + \frac{K3r}{100} \times \frac{K3t'}{K3t} \right) \times \frac{Kr}{K1r + \dots + K3r} \right. \\ + \left(\frac{R1r}{100} \times \frac{R1t'}{R1t} + \dots + \frac{R4r}{100} \times \frac{R4t'}{R4t} \right) \times \frac{Rr}{R1r + \dots + R4r} \\ + \left(\frac{Z1r}{100} \times \frac{Z1t'}{Z1t} + \dots + \frac{Z4r}{100} \times \frac{Z4t'}{Z4t} \right) \times \frac{Zr}{Z1r + \dots + Z4r} + \frac{Sr}{100} \times \frac{St'}{St} \\ \left. + \frac{100 - Kr - Rr - Zr - Sr}{100} \right\}$$

P'	: 積算単価(積算地区、積算年月)
P	: 標準単価(東京地区、基準年月)
Kr	: 標準単価における全機械(K1~K3、他)の構成比合計
K1r~K3r	: 標準単価における代表機械規格K1~3の構成比
K1t~K3t	: 代表機械規格K1~3の単価(東京地区、基準年月)
K1t'~K3t'	: 代表機械規格K1~3の単価(積算地区、積算年月)
Rr	: 標準単価における全労務(R1~R4、他)の構成比合計
R1r~R4r	: 標準単価における代表労務規格R1~4の構成比
R1t~R4t	: 代表労務規格R1~4の単価(東京地区、基準年月)
R1t'~R4t'	: 代表労務規格R1~4の単価(積算地区、積算年月)
Zr	: 標準単価における全材料(Z1~Z4、他)の構成比合計
Z1r~Z4r	: 標準単価における代表材料規格Z1~4の構成比
Z1t~Z4t	: 代表材料規格Z1~4の単価(東京地区、基準年月)
Z1t'~Z4t'	: 代表材料規格Z1~4の単価(積算地区、積算年月)
Sr	: 標準単価における市場単価Sの構成比
St	: 市場単価Sの所与条件における単価(東京地区、基準年月)
St'	: 市場単価Sの所与条件における単価(積算地区、積算年月)

標準単価から積算単価への補正方法は、地域及び時期の違いによる補正(下記①)に加え、下記②の補正が必要な場合がある。

- ① 地域及び時期の違いによる補正
- ② 時間外割増賃金や豪雪地域補正等を行う場合

Ⅲ-2. 標準単価から積算単価への計算例

①地域および時期の違いによる補正の計算例

(施工パッケージ型積算基準の条件区分に基づき積算する場合)

- ・施工パッケージ名称：表層（空港）
- ・条件区分：施工箇所（一般部）、施設区分（基本施設）、平均施工幅区分（7m超8m以下）現場条件（良好）
- ・標準単価：159.8 円

→福岡地区のR2.4における積算単価を算出

表層（空港）の代表規格・構成比

	規格	構成比 (%)	東京 (H31.4) (円)	福岡 (R2.4) (円)	摘要
K		37.33	—	—	
K1	ASフィニッシャ[ホイール型] 舗装幅3.0~8.5m[排ガス対策型(第1次)]	21.99	79,300	79,300	
K2	振動ローラ[搭乗式・タンデム]質量 8~10t[排出ガス対策型(第1次)]	6.19	21,200	21,200	
K3	タイヤローラ[排ガス対策型(第1次)]質量 8~20t	6.17	11,400	11,400	
R		58.06	—	—	
R1	普通作業員	20.10	21,100	19,500	
R2	特殊運転手	19.05	23,800	21,300	
R3	特殊作業員	11.52	24,200	21,900	
R4	土木一般世話役	3.90	24,600	23,200	
Z		4.50	—	—	
Z1	軽油1.2号 パトロール給油	4.50	114.0	119.0	
Z2					
Z3					
Z4					

※(R2.4)の単価は架空の単価である

P' (福岡 R2.4)

$$= 159.8$$

$$\begin{aligned}
 & \times \left\{ \left(\frac{21.99}{100} \times \frac{79,300}{79,300} + \frac{6.19}{100} \times \frac{21,200}{21,200} + \frac{6.17}{100} \times \frac{11,400}{11,400} \right) \times \frac{37.33}{21.99+6.19+6.17} \right. \\
 & + \left(\frac{20.10}{100} \times \frac{19,500}{21,100} + \frac{19.05}{100} \times \frac{21,300}{23,800} + \frac{11.52}{100} \times \frac{21,900}{24,200} + \frac{3.90}{100} \times \frac{23,200}{24,600} \right) \times \frac{58.06}{20.10+19.05+11.52+3.90} \\
 & + \left(\frac{4.50}{100} \times \frac{119.0}{114.0} + \frac{0.00}{100} \times \frac{-}{-} + \frac{0.00}{100} \times \frac{-}{-} + \frac{0.00}{100} \times \frac{-}{-} \right) \times \frac{4.50}{4.50+0.00+0.00+0.00} \\
 & \left. + \frac{100-37.33-58.06-4.50}{100} \right\} = 151.9 \text{ (円/m}^2\text{)} \quad \text{(有効数字4桁、5桁目以降切り上げ)}
 \end{aligned}$$

Ⅲ-2. 標準単価から積算単価への計算例

②時間外割増賃金や豪雪補正等の補正を行う場合の計算例

(時間外割増賃金による補正の計算例)

- ・ 施工パッケージ名称： アスファルト舗装（表層）
- ・ 条件区分： 施工箇所（一般部）、施設区分（基本施設）、平均施工幅区分（7m超8m以下）現場条件（良好）
- ・ 標準単価： 159.8 円

福岡地区のR2.4における労務費30%割増の積算単価を算出

アスファルト舗装（表層）の代表規格・構成比

	規格	構成比 (%)	東京(H31.4) (円)	福岡(R2.4) (円)	摘要
K		37.33	—	—	
K1	ASフィニッシャ[ホイール型] 舗装幅3.0~8.5m[排ガス対策型(第1次)]	21.99	79,300	79,300	
K2	振動ローラ[搭乗式・タンデム]質量 8~10t[排出ガス対策型(第1次)]	6.19	21,200	21,200	
K3	タイヤローラ[排ガス対策型(第1次)]質量 8~20t	6.17	11,400	11,400	
R		58.06	—	—	
R1	普通作業員	20.10	21,100	25,350	19,500×1.3
R2	特殊運転手	19.05	23,800	27,690	21,300×1.3
R3	特殊作業員	11.52	24,200	28,470	21,900×1.3
R4	土木一般世話役	3.90	24,600	30,160	23,200×1.3
Z		4.50	—	—	
Z1	軽油1.2号 パトロール給油	4.50	114.0	119.0	
Z2					
Z3					
Z4					

※(R2.4)の単価は架空の単価である

P' (福岡 R2.4)

$$= 159.8$$

$$\begin{aligned}
 & \times \left\{ \left(\frac{21.99}{100} \times \frac{79,300}{79,300} + \frac{6.19}{100} \times \frac{21,200}{21,200} + \frac{6.17}{100} \times \frac{11,400}{11,400} \right) \times \frac{37.33}{21.99+6.19+6.17} \right. \\
 & + \left(\frac{20.10}{100} \times \frac{25,350}{21,100} + \frac{19.05}{100} \times \frac{27,690}{23,800} + \frac{11.52}{100} \times \frac{28,470}{24,200} + \frac{3.90}{100} \times \frac{30,160}{24,600} \right) \times \frac{58.06}{20.10+19.05+11.52+3.90} \\
 & + \left(\frac{4.50}{100} \times \frac{119.0}{114.0} + \frac{0.00}{100} \times \frac{-}{-} + \frac{0.00}{100} \times \frac{-}{-} + \frac{0.00}{100} \times \frac{-}{-} \right) \times \frac{4.50}{4.50+0.00+0.00+0.00} \\
 & \left. + \frac{100-37.33-58.06-4.50}{100} \right\} = 177.3 \text{ (円/m}^2\text{)} \quad (\text{有効数字4桁、5桁目以降切り上げ})
 \end{aligned}$$

空港土木工事における代表材料規格の基準単価作成方法について
(令和2年4月適用)

空港土木工事における施工パッケージ型積算方式で標準単価から積算単価への補正を行う際に使用する代表材料規格の基準材料単価（以下、「基準材料単価」）は、原則として以下の1及び2の手順により作成している。

1. 基準材料単価は、「建設物価」（一般財団法人建設物価調査会発行）及び「積算資料」（一般財団法人経済調査会発行）（以下、「物価資料」という。）の平成31年4月号に掲載されている東京地区における代表材料規格の単価の平均値を採用している。
2. 2つの物価資料の単価を平均する場合、物価資料の有効桁数で切り捨てている。

以上

施工パッケージ型積算基準 代表機労材規格一覧

機労材区分	名称・規格	単位
1	機械損料 ブルドーザ[普通・排出ガス対策型(第1次基準値)]3t級	供用日
2	機械損料 トラック [普通] 2t積	供用日
3	機械損料 モータグレーダ[排出ガス対策型(第1次基準値)]ブレード幅3.7m	供用日
4	機械損料 ロードローラ[マカダム・排出ガス対策型(第1次基準値)]質量10~12t	供用日
5	機械損料 タイヤローラ[排出ガス対策型(第1次基準値)]質量3~4t	供用日
6	機械損料 タイヤローラ[排出ガス対策型(第1次基準値)]質量8~20t	供用日
7	機械損料 振動ローラ [ハンドガイド式] 質量 0.5~0.6t	供用日
8	機械損料 振動ローラ [搭乗式・タンデム] 排出ガス対策型(第1次基準値) 質量 8~10t	供用日
9	機械損料 振動ローラ [搭乗式・タンデム] 排出ガス対策型(第1次基準値) 質量 2.4~2.8t	供用日
10	機械損料 振動ローラ [搭乗式・コンパクト型] 排出ガス対策型(第1次基準値) 質量 3~4t	供用日
11	機械損料 ASフィニッシャ [クローラ型] 舗装幅 1.4~3.0m	供用日
12	機械損料 ASフィニッシャ [クローラ型] 舗装幅 2.4~6.0m [排出ガス対策型(第1次基準値)]	供用日
13	機械損料 ASフィニッシャ [ホイール型] 舗装幅 3.0~8.5m [排出ガス対策型(第1次基準値)]	供用日
14	機械損料 ディストリビュータ [自走式] 2000~3000リットル	供用日
15	機械損料 アスファルトスプレヤ[手押し式]25リットル/min	供用日
16	機械損料 路面清掃車 [ブラシ式・四輪式] ホッパ容量 2.5~3.1m ³	供用日
17	機械損料 散水車 5500~6500リットル	供用日
18	労務 特殊作業員	人
19	労務 普通作業員	人
20	労務 特殊運転手	人
21	労務 一般運転手	人
22	労務 一般土木世話役	人
23	材料 軽油 1.2号	リットル
24	材料 ガソリン レギュラー	リットル

(注1) 機械損料は、「平成30年度 船舶および機械器具等の損料算定基準」の供用日当たり換算値損料(15欄)を使用

V. 本単価表に掲載されている以外の単価表について

空港請負工事積算基準における施工パッケージ型積算対象箇所は以下の表(表1-1)のとおりである。

ただし、表1-2に示す土木工事施工パッケージ積算基準と重複する内容に関する単価は、本単価表に掲載していないことから、下表の対比表((表1-1)、(表1-2))より参照先(下記URL)の基準に対応する単価表をご覧ください。

表 1-1 空港請負工事積算基準の施工パッケージ対象工種 平成31年4月版積算基準の構成による			表 1-2 施工パッケージ型積算基準(土木工事) (令和2年4月1日以降から適用)		
大分類	中分類	小分類	小分類	中分類	大分類
第2編 共通工	第1章 土工	①土量変化率等	①土量変化率等	第1章 土工	第Ⅱ編 共通工
		②土工	②土工		
		③作業土工	③作業土工		
		③-1床掘工	③-1床掘工		
		③-2埋戻工	③-2埋戻工		
	④人力運搬工	④人力運搬工			
	⑤安定処理工	⑤安定処理工			
	第2章 共通工	①法面工	①法面工	第2章 共通工	
		①-1法面整形工	①-1法面整形工		
		②基礎・裏込砕石工	②基礎・裏込砕石工、基礎・裏込栗石工		
		③コンクリートブロック積(張)工	③コンクリートブロック積(張)工		
		④場所打擁壁工	⑤場所打擁壁工		
④-1場所打擁壁工(1)		⑤-1場所打擁壁工(1)			
④-2場所打擁壁工(2)		⑤-2場所打擁壁工(2)			
⑤排水構造物工	⑩排水構造物工				
⑩-1排水構造物工	⑩-1排水構造物工				
第3章 コンクリート工	①コンクリート工	①コンクリート工	第4章 コンクリート工		
		②型枠工		②型枠工	
		②型枠工		②型枠工	
第3編 空港	第1章 用地造成	⑤-1舗装版破砕工	②舗装版破砕工	第3章 道路維持修繕工	第Ⅳ編 道路
		⑤-2舗装版切断工	③舗装版切断工		
	第2章 基本施設舗装	①路床整形工	} 本単価表で記載		
		②下層路盤工			
		③上層路盤工			
		⑤アスファルト舗装工			
	第3章 舗装	③路盤工	①路盤工	第1章 舗装工	第Ⅳ編 道路
		④アスファルト舗装工	②アスファルト舗装工		
		⑤透水性アスファルト舗装工	③排水性舗装工		
		⑦縁石工	路側工	③-3透水性アスファルト舗装工	
I 縁石工	③-2路側工(取外し)				
II 縁石取壊し工					

注)小分類に記載している丸囲み数字は各積算基準書の目次に記載している丸囲み数字である。

○施工パッケージ型積算方式標準単価表は国土技術政策総合研究所ホームページで公表している。

・本単価表

国総研トップページ>各研究部のページ(空港)>空港施工システム室>ダウンロード>施工パッケージ型積算関連
<http://www.ysk.nilim.go.jp/kakubu/kukou/sekou/page-siryou1RN.html>

・本単価表に掲載されている以外の単価表

国総研トップページ>各研究部のページ(総合技術政策)>建設システム課>研究テーマ・技術情報>施工パッケージ型積算の研究
http://www.nilim.go.jp/lab/pbg/theme/theme2/theme_sekop.htm